

NEW

Visual Studio.NET/.NET Framework関連ツール新製品レビュー

PRODUCTS

オブジェクト ワークス

オブジェクトワークス for .NET

.NET Framework対応のWebアプリケーション開発用フレームワーク



イルミネート・ジャパン・コーポレーション
http://www.illuminate-j.com/
溝端 二三雄 MIZOBATA, Fumio

問
合
先

株式会社野村総合研究所 システムコンサルティング事業本部 情報技術本部

TEL : 03-5255-9244

URL : http://works.nri.co.jp/

FAX : 03-5255-0379

MAIL : o3w@nri.co.jp

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
 - Visio 2002
 - Excel 2002

Environment

ターゲットOS
Windows 2000/XP/2003 Server
Visio 2002
(画面遷移定義時に必要)
Excel 2000/2002
(データストア定義時に必要)

開発環境
Visual Studio .NET 2002/2003
(VB.NET/C#)

価格
CORE for .NET :
700,000円 (1CPU) ~
STUDIO for .NET :
100,000円 (1ユーザー) ~
CSP for .NET :
500,000円 (1CPU) ~
EF1 for .NET :
200,000円 (1ユーザー) ~

.NET Frameworkに 足りないもの

.NET Frameworkと Visual Studio .NET (以下VS.NET) によって、開発生産性は驚くほど向上しました。これは、使用した経験のある方であれば、誰もが抱く感想ではないでしょうか。しかし、市場ではさらなる生産性を向上させる「拡張フレームワーク」製品が存在します。“これらを使用すべきなのか?” また、“その特徴は?” など、気になることも多いはずですが。今回はその中から、野村総合研究所が開発/販売を行なう「オブジェクトワークス for .NET」を取り上げ、その活用方法の概要を紹介しながら、その特徴を解説します。

ASP.NET Webアプリケーション開発において、.NET Frameworkに不足しているもの——それは、「画面遷移フレームワーク」ではないでしょうか。どんなWebアプリケーションにも画面遷移は必要です。また、画面遷移といえば、ページ間のデータ共有など、初心者にとっては混乱やミスにつながり、上級者にとってはお決まりの手順で面倒だと感じる作業が付きまといまいます。

このように、.NET Frameworkは優

れていると思いますが、完全ではありません。その不完全な部分を補うのが、「拡張フレームワーク」です。今回のオブジェクトワークス for .NETもそのひとつです。まずはその開発方法の概要から紹介するため、オブジェクトワークス for .NETの構成要素である、開発環境「オブジェクトワークス/STUDIO for .NET (以下オブジェクトワークス/STUDIO)」と、実行環境「オブジェクトワークス/CORE for .NET (以下オブジェクトワークス/CORE)」を使用します。

画面遷移定義の 作成準備

まず最初に、Visio 2002を起動します。オブジェクトワークスの開発環境である、オブジェクトワークス/STUDIOが正しくインストールされていると、「図面の種類の選択」画面に、「画面遷移定義」という種類が表示されるので、その中から「画面遷移定義 (.NET)」を選択します (図1)。すると、画面遷移図を描画するための新しいVisioシートが作成されます。

はじめに行なうことは、このシートのプロパティを設定することです。[画

図1: Visioテンプレートの選択

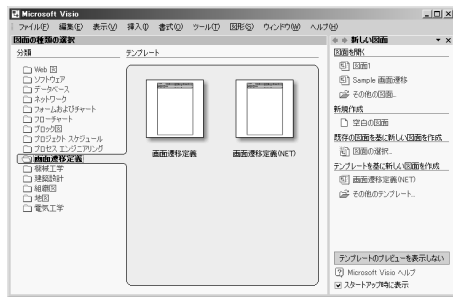


図2: 画面遷移定義ファイルのオプション

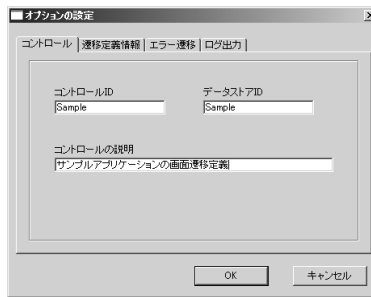


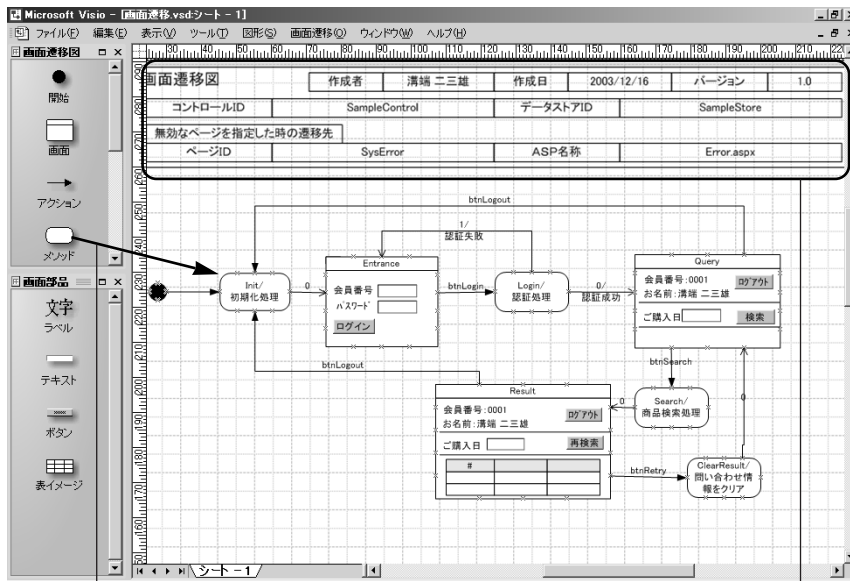
表1: 画面遷移定義ファイルのオプション設定

タブ名	設定項目名	設定項目の説明	サンプルの設定値
コントロール	コントロールID	作成する画面遷移定義の名前	SampleControl
	データストアID	後で開発する「データ定義シート」項目に指定するIDと同じ値	SampleStore
	コントロールの説明	作成する画面遷移定義の説明文	サンプルの画面遷移
画面定義情報	画面遷移定義ファイル出力フォルダ名	画面遷移定義ファイルを作成するフォルダ	C:\OWSample
	作成者	このファイルの作成者	溝端 二三雄
	作成日	このファイルの作成日	2003/12/16
	開発者指定バージョン情報	このファイルのバージョン情報	1.0
エラー遷移	別コントロールの画面へ遷移する (チェックボックス)	無効なページを指定したときの遷移先画面 (エラー画面) を、別の画面遷移定義にリダイレクトする	非選択
	ページID	無効なページを指定したときの遷移先画面のページID	SysError
	ASP名称	無効なページを指定したときの遷移先画面のファイル名	Error.aspx
ログ出力	ログ情報を出力する (チェックボックス)	画面遷移定義を開発中に発生したエラーメッセージをログファイルに出力	非選択

面遷移] - [オプション設定] を実行すると、図2のように「オプションの設定」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスでは、表1のような情報を設定することができますが、この中の重要な設定について説明してゆきましょう。

「コントロールID」は、出力される画面遷移定義ファイル (XMLファイル) のファイル名になり、作成する画面遷移定義の識別子です。作成するアプリケーションで一意になるように指定します。コントロールIDが存在することから想像できると思いますが、オブジェクトワークスを活用してWebアプリケーションを作成する際に、画面遷移定義はひとつだけではありません。ひとつのWebアプリケーションに複数の画面遷移を定義することのほうが多いはずですが、オンラインショッピングサイトを考えても、「買い物をする」ための機能、「過去の買い物履歴を確認する」ための機能、「ユーザー登録やユーザー情報を変更する」ための機能など、機能ごとにサブシステム化してシステム構築するように、画面遷移定義も分割することができます。

図3: 画面遷移定義の画面



ドロップすれば、設定を行なうダイアログが表示される

「オプションの設定」(図2) の設定内容が表示される

「データストアID」は、後で作成するデータ定義 (Excelの拡張アプリケーションで作成) との関連を示すものです。

図2の「エラー遷移」タブでは、画面遷移において、予想外のページID (遷移先画面の指定) やアクションID (イベントプロシージャの呼び出し) が発生した場合に表示されるエラー画面を指定します。ほとんどの場合、特定のページを指定することになるでしょう。

表1の設定を行なうと、Visioのシート上部には、図3のように、オプションで指定したいくつかの項目が表示されます。